

令和2年9月定例会市議会市政報告

令和2年第4回釧路市議会9月定例会の開会にあたり、6月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「**新型コロナウイルス感染症に関連する事業**」についてであります。

始めに、『釧路市プレミアム付商品券』につきましては、「物販等専用券」及び「飲食店専用券」各5万冊の初回発行分が、6月22日の予約受付開始後、4日間で上限に達したことから、物販等専用券10万冊、飲食店専用券5万冊の増刷を実施したところであります。

今後は、予約段階で生じた余部の物販等専用券などの再販売を予定しております。

次に、『特別定額給付金』につきましては、去る8月17日に受付期間が終了し、申請世帯数は94,188世帯、申請率は99.6%となり、本市における支給総額は166億4,130万円となったところであります。

次に、市内の団体や民間事業者からイベント実施のご提案をいただく『「釧路の元気」プロジェクト支援交付金事業』につきましては、20事業のご応募をいただきました。7月23日に開催されました「たの・うま・ベイフェスティバル」を皮切りに、採択いたしました全6事業につきまして、順次、感染防止対策をしっかりと施した上、市民が楽しむことのできる場づくりを行っていただいているところであります。

このほか、釧路市内で行われるスポーツ合宿につきましては、コロナ禍にありながらも、24団体、300人の方にお越しいただく見込みとなっております。陸上競技を中心に、その半数を超える13団体が、初めて釧路市で合宿を行っていただくこととなっております。

次に、『新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金』についてご報告いたします。

去る6月24日、国から第2次分の釧路市の交付限度額23億3,685万6千円が示され、第1次分も含めた総額は30億2,692万6千円となりました。

第2次提出における主な追加・拡充事業につきましては、市立釧路総合病院の医療機器整備に伴う「病院事業会計への繰出・補助事業」のほか、市内事業者に対する固定費支援として、水道料金・下水道使用料の1ヶ月減免を追加実施する「水道事業会計及び下水道事業会計への繰出・補助事業」、小中学校のICT環境を整備する「GIGAスクール構想推進事業」などであります。

これにより、第1次提出時を含めた事業数は50事業、交付対象経費の総額は37億4,747万9千円となったところであります。今後、国庫補助事業の地方負担額等を基礎として算定される「第3次分」の増額が見込まれておりますことから、国等の動向を注視し、適切に対応してまいりたいと考えております。

次に、『PCR検査センターの設置』についてご報告いたします。

PCR検査センターにつきましては、7月30日に、釧路市医師会の呼びかけにより、市内関係機関による協議が行われ、設置の必要性が確認されたところであり、8月11日には

、釧路市医師会から市に対し、「PCR検査センター開設に係わる要望書」が提出されたところでもあります。

こうした経過も踏まえ、感染者が多数発生したときにも対応できる検査体制を整え、市内における「感染拡大の防止」と「医療体制の維持」を図るため、医師が必要と判断した方を対象とする、いわゆる「行政検査」を行うPCR検査センターの設置が必要であると判断したものであります。

今後、設置場所や検査体制などの具体的な内容について、釧路保健所及び釧路市医師会と協議を行い、早期設置に向けて進めてまいりたいと考えております。

報告の第2は、「市立釧路総合病院の新棟建設」についてであります。

去る7月21日に開催されました地域医療構想調整会議において、見直し後の新棟建設計画における医療機能や病床数についてお諮りをし、合意が得られたところでもあります。

計画見直しの主な内容といたしましては、手術部門や集中治療部門の充実などによる高度急性期機能の充実を図るとともに、新棟稼働後の総病床数については、地域の医療機関との連携強化や在院日数の短縮により、現状の643床を前回の計画で600床としていたところ、535床とし、更なる適正化を図ることとしたものであります。

今後は、国や北海道と協議を進めた後、来年度当初予算において、関連予算案を計上させていただき予定であり、釧路・根室管内唯一の地方センター病院、救命救急センターとして、高度な急性期医療を提供する機能を確保していくよう、しっかり進めてまいりたいと考えております。

報告の第3は、「大塚製薬株式会社との包括連携協定の締結」についてであります。

去る7月27日、釧路市は大塚製薬株式会社との包括連携協定を締結いたしました。

この協定は、釧路市民の健康づくりの推進や、スポーツ振興、災害対策などについて、双方の資源を生かしながら、連携・協働するものであります。

大塚製薬株式会社には、これまでも釧路市のまちづくりに対し様々なご協力をいただいていたところであり、これを契機として協力体制の強化を図りながら、市民の健康増進や市民サービスの向上に取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第4は、「ピーチ・アビエーションの釧路ー成田定期便就航」についてであります。

釧路空港2路線目となるLCC・ピーチ・アビエーションによる釧路ー成田定期便が、8月1日から就航いたしました。

釧路空港開港以来、初めての成田線就航となります。

初便当日は、成田国際空港におきまして、ピーチ・アビエーション主催による新規就航セレモニーが開催されるとともに、釧路空港では、到着客に対する歓迎お出迎えや報道向けのフォトセッションなどを行ったところでもあります。

新規路線の就航は、ひがし北海道エリアへの観光客誘客の大きな推進力になるものと期待するところであり、今後は関東圏に対し、ピーチ・アビエーションと連携したプロモーションを実施するなど、路線定着へ向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

報告の第5は、「**長期滞在事業の令和元年度実績**」についてであります。

令和元年度における釧路市の長期滞在の受入実績は、1,562組2,219人、延べ滞在日数は25,872日となり、滞在者数、滞在日数ともに過去最高となったところであります。

この結果、8月末に発表された北海道体験移住「ちょっと暮らし」の令和元年度実績において、9年連続で道内第1位を達成いたしました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けておりますが、くしろ長期滞在ビジネス研究会と緊密に連携しながら、長期滞在者へのきめ細やかなサポートを行い、需要回復を目指して参りたいと考えております。

報告の第6は、「**工事発注状況**」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約135億円となっており、8月31日現在における発注済額は約66億7千万円であり、発注率は、49.4%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約62億1千万円、率ではおよそ93.0%となっております。

主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約68%、上水道事業で約25%、下水道事業で約82%、住宅建設事業は約99%の状況となっております。

今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。